

2019

JULY 7 vol.46

東京成徳広報



大学が八千代市で開学して 26 年。シンボルツリーの樟（クスノキ）も大きく成長した。



学校法人 東京成徳学園

C O N T E N T S

P 3	巻頭言「中等教育改革」 東京成徳学園 理事長 木内 秀樹
P 4	特集「中学校が ADS に認定」
P 5	特集「東京成徳学園の平成を振り返る」 本学園の取り組み 本学園の平成の出来事を振り返る
P 8	学園の動き「役員・評議員の異動 学園人事」 役員・評議員の異動 名誉教授授与 訃報 採用・退職・異動
P 10	学園の動き「平成 30 年度事業の概要」
P 11	学園の動き「令和 元 年度事業計画（抜粋）」
P 12	ひと『活躍する卒業生』 タレント 副島 淳さん
P 13	進路「大学・短期大学の就職」
P 14	進路「高等学校の進学」
P 15	TOPICS 国際学部 人文学部（日本伝統文化学科 国際言語文化学科）大学院 応用心理学部（臨床心理学科 福祉心理学科 健康・スポーツ心理学科） 子ども学部 経営学部 短期大学 中高一貫部 高等部 深谷高等学校 深谷中学高校一貫コース 幼稚園 学園後援会
P 23	クラブ活動
P 24	オープンキャンパス・お問い合わせ先



TOKYO SEITOKU

学園シンボルマーク
イエローは「活力」と「勇気」を表し、
三本の柱は学生・生徒・園児、教職員、
同窓生を象徴しています。
ブルーは「理想」と「若さ」を表し、五
本の柱は五つの教育目標を象徴していま
す。
そして、八本の柱が一体となり、東京成
徳学園とその学園に集う人々のヒューマ
ニティを作り上げる姿を表現しています。

表紙 大学が八千代市で開学して26年。シンボルツリーの樟も大きく成長した。
クスノキ

平成時代の本学園の最大事業は、大学が平成5年に千葉県八千代市で男女共学により開学したこと。開学時に植栽されたシンボルツリーの樟も26年の歳月を経て大きく成長した。



「中等教育改革」

東京成徳学園 理事長 木内 秀樹

一、学習指導要領改定

国の中等教育改革が目前に迫ってきた。今回の主な変更点は、十年ごとに見直される学習指導要領の改定と大学入試改革である。

学習指導要領の改定については、2020年度小学校、2021年度中学校、そして2022年度から高校で二年より順次実施される。前回は、学校週五日制のもと「ゆとり」の中で一人ひとりの子供たちの「生きる力」を育成することを目指した。

「総合的な学習」に象徴されるように、知識中心の詰め込みから生徒の自主的な学びへと学力の意味を広げようとした。そして前回は、「生きる力」の育成は継承しながらも「ゆとり」の反動から、理数教育の充実や授業時間数の増加がポイントとなった。

二、今回の改定について

さて、今回の改定の内容はどうであらうか。目指すものとして、新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実を掲げている。「学力の三要素」を重視しながら、次の

ように説明している。「何を学ぶか」では、学習内容の削減は行わず、小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設などが行われる。

「どのように学ぶか」については、主体的・対話的で深い学びの視点から学習過程の改善が求められている。ここでも知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善を図ることとしている。

そして「何ができるようになるのか」については、知識・技能の習得と未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を行い、学びを人生や社会に生かそうとする、学びに向かう力・人間性等の涵養を実現するとしている。

以前の「ゆとり教育」失敗のトラウマから知識の量を減らさずという条件が明記されているが、新科目の設定など量的な負担も大きく、教育現場ではその対応に苦慮するのではないだろうか。「総合的な学習」の時と同様、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、指導者側の力

量だけでなく生徒側のポテンシャルが大きく影響せざるを得ない。IB（インターナショナル・バカロレア）教育のように七科目程度のカリキュラムでじっくり考えさせる授業が展開されるなら可能だろうが、今のままでは時間的制約もあり、対話が十分成立せず表面的な学びになる恐れがある。

もともとOECDが十五歳を対象に実施したPISA調査では、科学的リテラシー、読解力、数学的リテラシーの各分野において日本は国際的に高い評価を得ており、日本の中等教育は優れているといえる。ただし、大学の国際的評価となるとアジアの中でも後退しており憂慮すべきことである。今後学士力を高めるためには、

大学教育のグローバル化を進め質の高い教育を実現しなければならぬ。そのためにはそれぞれがバラバラに行われるのではなく、大学教育改革、高校教育改革、大学入試改革の三者が同じ方向を目指して取り組まないと成功しないだろう。「大学入試が変わらない限り高校教育が変わらない」とは昔から言われていることであるが、向学心に燃える若者が入学して、がっかりすることのない学びの内容を大学が提示し、実行する責務がある。

三、「自分を深める学習」について

さらに今回注目すべきものとして、

教育再生実行会議の提言を踏まえ「道徳の時間」（小中で週二時間）を「特別の教科」として扱うこととなったことである。教科である以上、本来は評価をつけなければならないが、「特別な教科」という位置付けで、数値評価ではなく励ます評価（記述式）とし、調査書には記載せず入学選抜に使用しないとしている。この教科のねらいは、「答えが一つではない課題に子供たちが道徳的に向き合い考え議論する」道徳教育への転換により児童生徒の道徳性を育むとしている。

これについては、本校で十六年前から実施している「自分を深める学習」こそこうした考えを先取りしたものとして評価できる。「自分を深める学習」は、もともと建学の精神である「成徳」に根ざした授業として、「自分とは何か」「自分はどうか生きるか」を考えようというものである。その原型は、ドイツの中等教育機関ギムナジウムの授業にある。ここでは、ソポクレスのギリシア悲劇「アンティゴネ」をもとに「法と正義」や「公と個人」といった根源的な価値を生徒に問いかけ議論するもので、まさに今回のねらいに合致するものである。これこそ、古くから実践されているものであると同時に、新しい時代にこそ求められる「教養」についてのひとつの取組みだと考えている。

中学校がADSに認定

ICT活用推進部長 和田一将
東京成徳大学中学校は、この度、Apple Distinguished School（以下「ADS」という。）2018年（2021年に認定されました。iPadを用いた下記の取り組みが認められたものです。ADSの認定



を受けている学校は世界中で400校ありますが、日本には7校しかなく、中高では4校目となります。

①主体的な思考、意見を持ち、行動できる、②チャレンジ、リトライができる、③多様性を理解し、受容し、多様なものと連帯できるマインドがある、④日本人（東京成徳生）としてアイデンティティを持つことを求めています。

このビジョンを達成するために、私たち教職員は、学園の教育ビジョン認識の共有を深め、異文化理解とコミュニケーション能力の向上を図り、主体的な学習につながる指導を行っています。iPadを用いて対話やコミュニケーションを取りながら生徒の学びを深め、行事などの授業外活動を中心に新たに生徒達の発想で作り、考えること。またそれらのアイデアについてiPadを利用してまとめ、発表、表現させ、創造力を引き出す教育に努めています。

テクノロジーは本校の教育課程において、問題解決能力や批判的思考の育成に欠かせないものとなっています。全ての生徒がiPadを所有し、インターネットを利用しながら学習を深めます。

例えば、理科プロジェクト（TSP）では様々な諸問題に対してチームで考え、打開策を見つめる力を養います。具体的には土地が狭い日本において海の

上で風力発電ができないか？といったプロジェクトがそれに当てはまります。生徒たちは海に浮いた風車がどのくらい揺れてしまうのか、どのようにしたら効率よく発電ができるようになるかiPadで撮影をしながら考察を深めます。この実験についてはメーカーが主催するプレゼン大会で実践発表、模型プロトタイプを作成しデータ収集を行う実験を行ない優秀な成績を収めました。

理科プロジェクトでは、「探求する授業」を重視しており、「理科知識の定着」、「論理的思考力」、「コミュニケーション能力」、「問題解決能力」の育成を目標に、授業で学習していない内容の事柄などについても生徒同士のディスカッションを通じて、正解や不正解は問わず自身の考えをしっかりと言葉に出す課程を大切にしています。その後、話し合った内容が正しいのかiPadを使用し、調べながらお互いが納得する答えを探ります。

また、本校では、中学3年時に3ヶ月間、ニュージーランドへ全生徒が留学をするため、様々な教科で生徒達がグローバルに活躍できる力を養っています。特に英語の授業では、英語を運用力の4技能を適切かつ個別的に評価するため、生徒はiPadの録音機能を使うSpeaking Testや、Pagesを用いたエッセイを書かせるテストなどから課題

点や成果を抽出し、生徒個人に対して細かいフィードバックを行なっています。

本校がADSに選出されたことは、生徒のやる気を引き出す、本校の革新的で魅力的な学習環境を裏付けるものであり、私達東京成徳学園の教育における成果を明白に証明するものでもあります。普段の授業のみならず行事や探究活動などの授業外活動にもAppleのテクノロジーを活用し、協働しながら作業を行うことで、お互いの考えを深めながら新しい考えをみつけることができる生徒達自身が自覚し、彼らの成長に大きく寄与しています。

現在進めている様々な教育改革を引き続き推進して参りたいと思います。



東京成徳学園の平成を振り返る

平成の時代が4月に幕を閉じた。平成の30年余の間に、国内に限っても、バブル経済の崩壊とその後の経済の長期低迷、少子高齢化の急速な進展、多くの生命を脅かした未曾有の自然災害などに遭遇した。一方、スマートフォンやパソコンの進化と相俟ったインターネットの普及によって、情報化社会が到来するとともに、グローバル化も加速した。このような社会変化を反映して、教育とりわけ私学も転換期を迎えることになった。時代の大きな変化の中で、本学園がどのように取り組んできたかを、振り返ってみよう。

私学を取り巻く環境

1・少子化と進学率の動向

18歳人口は、団塊ジュニア世代が平成初期にこの年齢に達し、平成4年に205万人と平成のピークを迎えたが、その後は減少傾向が続ぎ、現在約120万人となっている。一方、大学・短大の入学人数は、短大が大きく減少するものの大学が進学率の上昇により漸増を維持し、大学短大の合計入学人数は、人口減の落ち込みに比べて小さなものに止まった。しかし、高校は、進学率が平成初めに既に94%（現在は97%前後）に達しており、人口減少が

そのまま高校入学人数減に繋がっている。

2・行政の動向

技術革新、グローバル化の進展及び社会構造の変化を背景に文部科学行政も変更された。具体的には、多様な社会のニーズに対応して教育の個性化や多様化が推進できるよう規制緩和が行われた。一方、教育研究水準の向上や活性化を促進させるとともに、情報公表を行うなど、私学が社会的責任を果たす方向に舵が切られた。

しかし、ここに至ってこれまでの規制緩和路線が三転した。地方創生の観点から、23区内での大学定員増の10年間原則禁止や大規模大学における定員管理の厳格化などの措置がとられるようになった。

本学園の取り組み

1・大学設置と高等教育の充実

高学歴化や進学者ニーズの多様化に対応するため、平成5年に大学を入学定員200人で開学後、学部学科増や改組転換並びに大学院研究科の設置などを実施した他、教育研究の改善を図り、大学を中心に高等教育の充実に努めてきた。現在大学は、4学部5学科（他に、1学部3学科が募集停止中で在学生を有す。）及び大

学院1研究科を擁する。

2・男女共学化の推進

本学園は、創立以来幼稚園を除き女子教育に注力してきたが、社会の変化に対応し、平成5年の男女共学による大学の開設を契機に漸次各学校の共学を進め、平成16年には設置全校が男女共学化した。平成30年5月1日現在、学園全体の在校生の男女比率は、男性42%、女性58%となっている。

3・中高一貫教育の開始

中高一貫教育に対するニーズの増大に应运え、東京校本館を中高一貫専用の校舎に建替えて、平成10年から中高一貫教育を開始した。さらに、平成25年には、深谷中学校を新設し、深谷校においても一貫教育を開始した。

4・東京成徳ビジョン100及び中期事業計画の策定

平成27年の学園創立90周年に当たり、創立100周年に向けて「東京成徳ビジョン100」を策定し、目指す将来像として「成徳の精神を持つグローバル人材の育成」を掲げ、戦略を教育体制・経営基盤・ネットワークに分け、さらに教育体制については学校ごとに、重点目標と施策を決定し推進することにした。また、ビジョン100を具体化するため、3年ごとの3期に分け中期事業計画を策定することとし、平成29年に「ビジョン100第1期中期事業計画（平成

29～31年度）」を策定し実施してきた。

5・グローバル化への対策

「成徳の精神を持つグローバル人材の育成」のため、平成30年に東京キャンパス6号館グローバルセンターを新築した他、平成31年に国際学部も開設した。また、中等教育では外国人教員やALTの増員、LAN環境整備などにより、グローバル教育を加速している。

6・施設設備の充実整備

平成5年に大学を新設するため、千葉キャンパス（八千代）の土地取得・建物新築等を行った。平成6年に東京キャンパス（十条）の隣接地取得の後、平成14年の「工場等制限法」の廃止に伴い23区内に大学新増設が可能になったことを受け、東京キャンパスの校舎新築や建替えなどを実施し、千葉から東京キャンパスへの集約を進めてきた。さらに、各校の耐震補強や改築、ネットワーク環境や運動施設の整備などを行い、安心安全・機能性・快適性の向上を進めた。

7・学校法人の管理運営体制の改善

大学開学に向けて法人本部を補強したうえ、開学後は大学事務局を開設、大学法人に相応しい管理運営体制を目指してきた。近年、行政や社会の私立学校に対するコンプライアンス要請が層強まっており、学園もこれに呼応して管理運営の整備充実に努めている。

東京成徳学園の平成の出来事を振り返る

西暦
和暦

学園・学校の出来事

理事長・学校長の就任

施設設備の整備

社会の出来事

1989
平成元年
大学設置に向けて平成元年3月より基本金計画組入れなど
本格準備開始1990
平成2年
短大期間付定員増申請（H3～H11）
菅澤喜八郎高校長就任
木内秀樹中学校長就任1991
平成3年
大学設置認可申請書提出1992
平成4年
大学設置が文部大臣より認可
学園シンボルマーク決定1993
平成5年
八千代に大学開学（人文学部日本語・日本文化学科 英語・
英米文化学科 福祉心理学科）
深谷高校創立30周年1994
平成6年
高校商業科を情報商業科に、家政科を生活文化科に名称
変更1995
平成7年
学園創立70周年
短大創立30周年1996
平成8年
深谷高校一部コースで男女共学化1997
平成9年
大学第一回卒業式
中等教育の校名を短大付属から大学名を冠する校名に変更1998
平成10年
大学八千代に大学院心理学研究科開設
中高一貫教育を男女共学で開始
深谷高校商業家庭科廃止1999
平成11年
短大に専攻科開設2000
平成12年
大学院を昼夜開講制とし北区に移転
人文学部に臨床心理学科開設
短大文科を言語文化コミュニケーション科に名称変更
高校情報商業科廃止2001
平成13年
人文学部を日本伝統文化学科・国際言語文化学科に改組
短大にビジネス心理学開設2002
平成14年
短大専攻科を1年課程から2年課程に変更2003
平成15年
大学創立10周年
大学院博士後期課程開設
高校全面共学化
深谷高校創立40周年

大澤深谷高校長



小野幼稚園長



村松深谷高校長



木内大学長



菅澤高校長

十条に現1号館・2号館完成
既存校舎改修深谷高校総合体育館
（Fアリーナ）完成深谷高校内に短大王子校舎改修
深谷高校内ヶ島グラウンド
賃借・整備大学八千代野球場・
サッカー場完成大学ゴルフ練習場完成
中高一貫部校舎建替完成・
高等部校舎リニューアル

大学テニスコート完成

短大学生会館完成・
大原グラウンド整備十条隣接地取得
深谷高校スクールバスを本格運行

新大学八千代校舎完成

短大原グラウンド取得

新大学八千代校地取得

深谷高校運動場用地賃借



深谷高校総合体育館（Fアリーナ）



中高一貫部校舎



開学時の大学千葉キャンパス（八千代）

個人情報保護法成立
地上デジタル放送開始
イラク戦争小泉首相訪朝
ワールドカップ日韓共同開催省庁再編1府12省庁に
米国で同時多発テロ二千円札発行
ハッピーマンデー制度導入
介護保険制度開始

国旗・国歌法成立

ユーロ導入

長野冬季五輪

消費税5%に増税
北海道拓殖銀行・山一証券
経営破綻

「たまごっち」大流行

阪神淡路大震災
地下鉄サリン事件
戦後50年自社と連立政権成立
関西国際空港開港阪神淡路大震災
戦後50年新幹線のぞみ運転開始
自衛隊P.K.O.派遣徳仁皇太子結婚の儀
自民党下野
Jリーグ開幕
記録的冷夏バブル経済崩壊
雲仙普賢岳噴火
湾岸戦争明仁皇太子が皇位継承
消費税導入（3%）
大学入試センター試験開始
東西ドイツ統一

2019 平成31年	2018 平成30年	2017 平成29年	2016 平成28年	2015 平成27年	2014 平成26年	2013 平成25年	2012 平成24年	2011 平成23年	2010 平成22年	2009 平成21年	2008 平成20年	2007 平成19年	2006 平成18年	2005 平成17年	2004 平成16年
人文学部を改組し国際学部開設	人文学部を新入生から東京キャンパス（十条）へ移転	人文学部観光文化学科廃止 第二幼稚園休園	臨床心理学は新入生から、大学院は在学生を含めて、東京キャンパス（十条）へ移転	学創立90周年 東京成徳ビジョン100策定 大学が第2回第三者評価を受審し適合認定 短大創立50周年	短大が第2回第三者評価を受審し適合認定	大学の位置を東京都北区十条台に変更 短大言語文化コミュニケーション科廃止 深谷中学校新設	子ども学部は小学校教職課程設置	短大ビジネス心理科廃止	人文学部に観光文化学科開設	経営学部経営学科開設 応用心理学に健康・スポーツ心理学開設 短大専攻科廃止	大学が第三者評価を受審し適合認定 応用心理学部を人文学部から分離して開設	短大が第三者評価を受審し適合認定	木内四郎兵衛記念教育研究基金充足 高校生活文化科廃止	学創立80周年 短大創立40周年	子ども学部子ども学科を十条に開設 短大の男女共学化開始
		新井邦二郎大学長就任			神田正深谷高校長就任	木内秀樹第5代理事長・短期大学長就任 木内秀俊学園長就任 海保博之大学長就任 星野薫第一幼稚園長就任	 木内第5代理事長		大谷幸男深谷高校長就任	加々美健一第一幼稚園長就任			木内秀樹幼稚園長就任	木内秀俊第4代理事長・大学長就任	中島諄子第一幼稚園長就任
 新井大学長	 神田深谷高校長	 星野幼稚園長	 海保大学長	 大谷深谷高校長	 加々美幼稚園長	 木内第4代理事長	 中島幼稚園長								
十条6号館新築完成 十条図書館・食堂改修	大学院十条5号館へ移転改修工事	大学八千代サッカーグラウンド人工芝敷設	十条3・4・9号館建替完成 深谷高校校舎改修	大学体育館空調工事 高校空調更新工事 深谷中学校校舎新築	高校体育館耐震改築工事	高校・幼稚園校舎耐震補強工事	高校校舎耐震補強工事	深谷高校校舎耐震補強工事							
 東京キャンパス（十条）鳥瞰図	 深谷中学校	 東京キャンパス（十条）現1、2号館													
天皇陛下が退位し上皇へ新元号「令和」に決定	働き方改革関連法成立 豊洲市場開業	熊本地震 天皇19年4月30日退位閣議決定	マイナンバー制度開始	選挙権18歳以上とする公職選挙法改正	消費税8%に増税	2020夏季五輪が東京に決定	東京スカイツリー開業	東日本大震災サッカー女子W杯優勝	羽田空港新滑走路等の運用開始	エコカー減税導入 裁判員制度の運用開始	後期高齢者医療制度開始 リーマンショック	憲法改正手続国民投票法成立 郵政民営化	改正教育基本法成立	京都議定書発効 愛知万博開催 人口自然減に	新潟県中越地震 裁判員法成立 新紙幣発行

役員・評議員の異動 学園人事

平成31年1月～令和元年6月

令和元年5月に開催された学園理事会・評議員会において、役員・評議員の任期満了に伴う改選が行われ、左表の通り決定しました。

木内秀俊理事・評議員、竹内利行理事・評議員、黒田定男監事が退任され、後任として、木内雄太氏及び

(就任)
理事・評議員 木内雄太
東北大学経済学部卒業 (株)損保ジャパンを経て、平成28年法人本部副本部長、評議員 平成30年中学・高等学校教諭
理事・評議員 柳澤裕
一橋大学経済学部卒業 三菱地所(株)執行役員・副社長・取締役等を経て、令和元年現職
監事 高田直芳
早稲田大学第一文学部卒業 埼玉県立吹上秋桜高等学校・浦和第一女子高等学校校長、埼玉県高等学校長協会会長等を経て、平成31年現職
評議員 木内万里夫
立命館大学大学院理工学研究科修了(工学博士) グロービス経営大学院大学経営研究科修了(MBA) 平成20年現職 平成31年グロービス経営大学院大学准教授兼務
理事・評議員 木内秀俊
昭和59年短期大学副学監・助教授に就任後、短大校長・教授、評議員・法人本部長・常務理事・副理事長等を経て、平成17～25年理事長・大学学長 平成25年理事・評議員、学園長・学事顧問として、学園の総合学

園への発展を牽引いただきました。
理事・評議員 竹内利行
平成22年より、外部理事・評議員として就任いただき、元群馬大学副学長・教授などのご経歴に基づく貴重なご意見をいただきました。
監事 黒田定男
平成13年大学事務局長、理事・評議員 平成25年監事として、学園及び大学の発展にご尽力いただきました。

役職	氏名	現職
理事長・評議員	木内秀樹	短期大学長、中学・高等学校長、幼稚園長
理事・評議員	新井邦二郎	大学長
理事・評議員	神田正	深谷中学・高等学校長
理事・評議員	○木内雄太	法人本部副本部長、中学校教諭
理事・評議員	渡部賢	大学事務局長、短期大学事務局長
理事・評議員	前田雅英	日本大学大学院法務研究科教授 ※
理事・評議員	青柳晴久	赤城印刷株式会社代表取締役 ※
理事・評議員	○柳澤裕	ジャパニリアルエステイト投資法人執行役員 ※
監事	黒崎康夫	株式会社黒崎インターナショナル代表取締役
監事	○高田直芳	埼玉県立浦和西高等学校参与
評議員	石山賢	内部監査室長、企画調査室長
評議員	村山純	大学経営学部長
評議員	関博光	法人事務局長
評議員	染谷一子	中学・高等学校同窓会長
評議員	遠藤洋子	短期大学同窓会長
評議員	藪崎精克	株式会社藪崎工務店代表取締役
評議員	安見克夫	短期大学幼児教育科長
評議員	吉田富二雄	大学応用心理学部長
評議員	永井聖二	大学子ども学部長
評議員	津島泰雄	津島歯科医院院長
評議員	○木内万里夫	住友精密工業株式会社、グロービス経営大学院大学准教授

(注) 選任区分順、○印は新任、※印は学外理事

東京成徳大学名誉教授の授与

平成31年3月に退職された、岡田康司地域創生研究所長・特任教授(前経営学部長)に対し、4月1日付で東京成徳大学名誉教授の称号を授与いたしました。



左から、木内理事長と退任された木内理事、竹内理事、黒田監事

訃報

佐々木富也 元学園理事・後援会長

令和元年5月30日ご逝去、88歳。

互興ビル(株)を経営する傍ら平成7年より平成22年まで学園の理事・監事・評議員として、また、平成8年より平成23年まで学園後援会長として、永年にわたり学園の発展にご尽力いただきました。

ご逝去を悼むとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

教員																	所属 氏名
深谷中学・高等学校						中学・高等学校					大学						
中島優香	根本清美	高木大樹	小濱尊之	瀧田良介	新井大器	柳直子	米澤皓稀	立川翔梧	青木理	久保匡弘	TREGURHA PHILIP PAUL	KEADY PAUL	武井孝介	徳永朗	羽岡佳子	小橋玲治	高草真知子
専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	経営学部教授	経営学部教授	子ども学部准教授	人文学部助教	人文学部教授

退職

職員		教員																							所属 氏名
幼稚園	大学	幼稚園				深谷中学・高等学校				中学・高等学校								大学							
菊池美里	堂坂美帆	鈴木沙耶香	田中美穂	本間美穂	山口カオル	池田優平	倉持雄基	茂木千恵子	永山敬司	河野友香	PETROVA TETIANA	江島直紀	牛山良太	TYSON CAMPBELL STEWART	吉村祐紀	藤井志保	原田優	小野寺紀子	小田切裕子	岡田康司	中瀬雄三	中山哲志	森下達	大井剛	小林朋恵
助手	八千代総務課員	教諭	教諭	教諭	教諭	専任講師	専任講師	専任講師	教諭	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	経営学部特任教授、地域創生研究所長	応用心理学部助教	応用心理学部福祉心理学科長・教授	人文学部助教	人文学部教授	人文学部長・日本伝統文化学科長・教授

昇任・異動

職員			教員																										所属							
本部	幼稚園	高校	大学・短期大学		深谷中学・高等学校		中学・高等学校						大学																							
龍野祐介	松島晶子	竹内真紀	坂尾麻衣	山田将之	深山静夫	道堀嘉奈子	小林雅央	福田雅貴	佐藤龍馬	神林成	大野剛志	菅井英司	古田ゆかり	山下玲	田村達司	卯木啓禄	永尾瑠衣	降矢貴充	青木久志	石井英樹	石川雅俊	木村祐子	長野麻子	小原由美子	夏原隆之	CONSTANTIN DALANA	江澤恭子	大和田栄	李允希	石黒万里子	村山純	今仲昌宏	江間由紀夫	岡本和彦	芳賀克彦	青柳隆志
企画調査室主任	主任	主任	総務課主任	入試広報課主任	八千代事務部課長（学生支援担当）兼キャンパスライフ支援課長		キャンパスライフ支援課主任	大学事務局次長兼八千代事務部長	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	教諭	中学・高等学校教頭（一貫部）	経営学部准教授	子ども学部准教授	子ども学部特任教授	応用心理学部准教授	国際学部助教	国際学部教授	国際学部教授	国際学部教授	入試・広報センター長	地域創生研究所長（兼務）		大学・短期大学図書館長兼分館長	応用心理学部福祉心理学科長・教授	国際学部国際学科長・教授	国際学部長兼日本伝統文化学科長・教授	
（十条白） 入試広報課主任	事務室	事務部	（十条白） 総務課員	八千代入試広報課主任	八千代学生支援課長		入試広報課主任	大学事務局次長兼八千代総務課長	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	専任講師	教諭	経営学部助教	子ども学部助教	子ども学部助教	子ども学部助教	応用心理学部助教	高等学校専任講師	人文学部教授	人文学部教授	人文学部教授	入試・広報センター副センター長	大学・短期大学図書館分館長		応用心理学部教授	人文学部教授	学長付教授	人文学部教授

* 大学・短期大学事務局学生支援課が、キャリア支援課とキャンパスライフ支援課に分離され、また、八千代総務課、八千代教務課、八千代学生支援課が八千代事務部に統合された。この組織変更による異動は省略。

平成30年度事業の概要

学園は、創立93年に当る平成30年度に、1,621人が卒業し、累計卒業者が12万5千人を超えました。また、平成31年4月に、1,688人の入学者を迎え、令和元年5月1日現在の在籍する学生・生徒・園児数は、前年比63人減の5,432人となりました。

今年度の学園の主要事業としては、①創立100年の将来像をまとめた「東京成徳ビジョン100」を具体化するため、第2期中期計画(平成29～31年度)の着実な実施、②効率的で効果的な運営を目指した大学校地校舎の統廃合と遊休資産の売却推進、③コンプライアンス重視による内部監査実施や法改正に対応した規程整備、などを行いました。

高等教育部門の主要事業としては、①平成30年度に、東京キャンパス(十条)の新校舎完成・図書館と食堂の改修・人文学部の移転・応用心理学部福祉心理学科の募集停止・同学部臨床心理学科の定員増などを推進、②平成31年度の人文学部の国際学部への改組転換並びに令和2年度の応用心理学部健康・スポーツ心理

学科の移転の準備、③外部評価制度の導入・ルーブリック評価の導入・ティーチングポートフォリオの制度化・教員評価制度の実践等「教育の質向上」に向けた取組みの強化、④各学部学科に適したアクティブラーニングの開発拡大、⑤キャリア教育の見直しと充実、⑥短期大学における実践的教育の充実による特質ある教育の明確化及びグローバル教育に向けての学修体制の充実、などを行いました。

中等教育の主要事業は、①グローバル人材の育成を目指した留学プログラムの見直しやネイティブ教員増員による英語教育の充実・柔軟な発想力・論理的思考を養うCTP(Critical Thinking Program)授業の展開継続等教育改善の取組み、②理科・社会などでアクティブラーニング型授業の二層推進、③進路指導充実のための外部講師による補習・スタディサプリの整備、などを行いました。

幼児教育部門の主要事業は、教職員の資質・指導力の向上を推進した他、園舎建替の検討に着手しました。詳しくは、学園ホームページをご覧ください。

学校法人東京成徳学園 平成30年度決算報告

資金収支計算書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで) (単位:千円)

収入の部	
科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	4,159,197
手数料収入	130,169
寄付金収入	14,890
補助金収入	1,629,957
資産売却収入	74,136
付随事業・収益事業収入	9,030
受取利息・配当金収入	681
雑収入	251,999
借入金等収入	750
前受金収入	903,009
その他の収入	235,832
資金収入調整勘定	△ 1,185,263
前年度繰越支払資金	6,537,147
収入の部合計	12,761,534
支出の部	
科 目	金 額
人件費支出	3,794,994
教育研究経費支出	1,024,087
管理経費支出	376,513
借入金等利息支出	22,866
借入金等返済支出	147,460
施設関係支出	736,706
設備関係支出	265,468
資産運用支出	0
その他の支出	257,209
資金支出調整勘定	△ 235,817
翌年度繰越支払資金	6,372,048
支出の部合計	12,761,534

(注) 千円未満を四捨五入しているため、合計等に差異が生じる場合があります。

事業活動収支計算書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで) (単位:千円)

事業活動収入の部		金 額
教育活動収支	学生生徒等納付金	4,159,197
	手数料	130,169
	寄付金	1,142
	経常費等補助金	1,613,191
	付随事業収入	9,030
	雑収入	251,999
	教育活動収入計	6,164,728
	事業活動支出の部	
	科 目	金 額
	人件費	3,794,954
外収支	教育研究経費	1,835,769
	管理経費	442,537
	徴収不能額等	5,012
	教育活動支出計	6,078,272
	教育活動収支差額	86,456
	教育活動外収入計	681
	教育活動外支出計	22,866
	教育活動外収支差額	△ 22,185
	経常収支差額	64,271
	特別収入計	32,057
特別収支	特別支出計	16,581
	特別収支差額	15,476
基本金組入前当年度収支差額		79,747
基本金組入額合計		△ 903,859
当年度収支差額		△ 824,112
前年度繰越収支差額		△ 9,549,586
基本金取崩額		13,021
翌年度繰越収支差額		△ 10,360,677
(参考)		
事業活動収入計		6,197,466
事業活動支出計		6,117,719

貸借対照表

(平成31年3月31日) (単位:千円)

資産の部	
科 目	金 額
固定資産	43,341,873
有形固定資産	40,323,031
特定資産	2,929,965
その他の固定資産	88,877
流動資産	6,799,927
資産の部合計	50,141,800
負債の部	
科 目	金 額
固定負債	4,335,025
流動負債	1,617,759
負債の部合計	5,952,784
純資産の部	
科 目	金 額
基本金	54,549,693
第1号基本金	53,826,693
第3号基本金	300,000
第4号基本金	423,000
繰越収支差額	△ 10,360,677
純資産の部合計	44,189,016
負債及び純資産の部合計	50,141,800

部門	ビジョン 100 重点目標	令和元年度主要事業の内容
大学	社会ニーズに対応した学部・学科編成	- 本年度人文学部を改組転換した国際学部について、入学者に特色ある教育内容の提供及び留学制度の円滑実施並びに来年度募集に向けた広報活動の強化 - 来年度入学生から開始する健康・スポーツ心理学科のキャンパス移転に向けた検討・準備 - キャンパス移転に伴い学年によって分断された学科について、学科内交流の促進
	教育の質向上 就業力や社会人基礎力育成での社会的評価の獲得	- 教育の質向上のため、私立大学等改革総合支援事業の取組み強化（外部評価・学生代表者委員会等） - 学生の授業評価や学修調査の結果及びシラバスの検討を踏まえた授業の内容と方法の継続的見直し - アクティブ・ラーニングを含めた授業方法の見直しと学生の多様性にマッチした授業方法の開発実践 - キャリア教育などの基礎教育・インターンシップや行事企画等による就業力や社会人基礎力の育成強化 - 平成 29・30 年度自己点検評価報告書の作成・改善
	大学の発展につながるグローバル化	- 国際交流担当者採用、留学や外国人学生受入れ態勢の整備、ベリタツと連携した英語レッスン開始 - 新たに設置したグローバルラウンジの活用、教員の海外での研究発表支援
短期大学	社会ニーズに対応した学部・学科編成	18 歳人口の減少の中、安定的に入学定員が確保できるよう、魅力あるカリキュラムの再編・入試選抜の工夫・他大学との差別化の推進
	教育の質向上 就業力や社会人基礎力育成での社会的評価の獲得	- 新課程実施に当りシラバス記入項目の改善、授業評価の査定・改善策の策定 - 全カリキュラムに思考力・判断力・課題解決力を盛り込み、アクティブラーニング授業の展開 - 実習・就職の情報一元化システムを構築し、実習・就職支援の効果拡大と効率化の促進 - 卒業生等を対象としたリカレント教育の在り方を検討するとともに保育研修会の継続実施
	大学の発展につながるグローバル化	- 諸外国の幼児教育の実情や文化・国際的幼児教育学等を学修する授業の継続実施 - 多国籍幼児の保育に備え、附属幼稚園や高校と連携した外国人保護者や教員による講義等の検討
高等学校・中学校	創造性とチャレンジ精神の涵養	- 現在実施している建学の精神に基づく「自分を深める学習」を深化させ、主体的な学びの核に - 高等部の「CTP」プログラム、中高一貫部の探求型「理科プロジェクト」の推進 - 学校行事等への生徒主体運営の一層の実現により、豊かな発想及び自主性・創造性の涵養
	グローバル人材の育成での社会的評価の獲得	- 英語スピーチコンテストの実施・DDR やグローバルラウンジの活用により英語四技能のレベルアップ - 高等部の留学支援による年間留学生の増加・一貫部の中学 3 年次学期留学の義務化など留学の奨励 - プロジェクターや校舎内の Wi-Fi 環境などの整備充実、タブレット利用による授業展開の実施と研究
	大学入試の変化等に伴う教育内容変化への対応	2020 年度からの大学入学者選抜改革に向けてプロジェクトを立ち上げて対応の検討 - 英語の共通テストに利用される外部検定について、選択して指導し成果を発揮
深谷高等学校・中学校	創造性とチャレンジ精神の涵養	- 生徒の能力や学習意欲を引き出す授業展開を目指し先進校見学・互見授業・授業アンケート等の活用 - 机上の学習を実体験として生かす、スピーチやプレゼンのコンテスト・幼稚園実習等の継続実施 - 生徒の主体性を引き出すため、学校行事や部活動等における生徒が主役の運営への改善継続
	グローバル人材の育成での社会的評価の獲得	- 英語によるレセプション大会・スピーチやプレゼンのコンテスト等の実施とその内容の充実 - 外国人教員及び英語科教員の増員 - 放課後の英語検定等対策講座の実施、個別指導の徹底、同世代の外国人や留学生との交流
	大学入試の変化等に伴う教育内容変化への対応	2020 年度からの大学入学者選抜改革に向けてコースや学年の枠を超えて検討・分析 - 英語については、4 技能向上・資格取得に向けた指導の充実
幼稚園	幼児教育環境の変化に対応する幼児教育のプログラムの再構築	2020 年度の園舎建替えに向け、工事中の運営を含めた計画の立案や調整の実施 - 建替え実施後のカリキュラム、運営形態、保育日・時間等の検討 - グローバル化に対応し、楽しみながらできる英語体験や異文化に触れるイベントの実施
	大学、短期大学等との連携の強化	- 大学・短期大学との連携の深化、実習園としての機能の一層充実 - 優秀な学生採用のため、学園設置の大学・短期大学卒業予定者のうち本園就職希望者に奨学金の支給
法人本部		- 東京成徳ビジョン 100 第 1 期中期事業計画（平成 29 ～ 31 年度）の推進と PDCA サイクルによるフォロー - 時代のニーズに合わせた大学の学部学科再編の検討と推進、学部移転に伴う千葉キャンパス活用の検討 - 理事会・評議員会・部門合同会議等の活性化及び各種監査の充実による管理運営体制の強化 - 確固たる経営基盤の確立に向け、学生生徒募集の強化・補助金や寄附金の獲得拡大の一方、経費削減をきめ細かく実施 - 組織の見直し・権限の明確化・法改正に伴う人事制度の見直し・規程整備・研修能力開発の強化など改革の推進

ひと

『活躍する卒業生』

人文学部日本伝統文化学科

(平成19年3月卒業)

タレント

そえじま じゅん
副島 淳さん

Q. 大学時代に活躍したバスケットボールを始めたのは

小学生の時は浦安で少年野球のチームに入っていました。中学の時は「スラムダンク」が凄く流行っていてそれに憧れてバスケット部に入部したのですが、弱いチームでまあ、お遊びみたいでした。ところが2年生の時赴任された先生が熱い情熱をもつて指導して下さってガラリと変わり、地区大会ではベスト4止まりでしたが、個人では「ジュニアオールスター」の千葉県選抜に選ばれました。バスケットボールへの道が開け、高校進学の際にはなんと20校位からお誘いがありました。



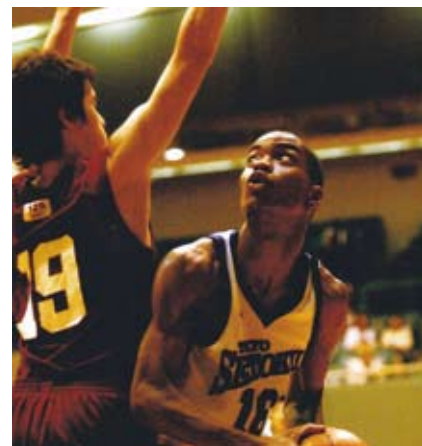
結局、市立柏高校のお世話になり、2年の時からOBの家に下宿して3年間は文字通りバスケット漬けでした。中学生とはパワーやスピードの違いが大きいくつオームをもらえたのは2年生の途中でした。3年生の時は千葉県内では全勝でしたが関東大会は準優勝が2度、同じ相手に悔し涙でした。

Q. 本学を選ばれた理由、在学中特に印象に残っていることは

多くの大学から勧誘を受けました。が、東京成徳大学は、丁度チームが4部から3部に昇格し、上昇気運にある時で、川北監督(教授)から「チームには副島の力が必要だ。」とのお話をいただき、決定しました。高3の時はスタメンでしたが自分が中心ではなかった。で東京成徳では自分が真ん中でやりたいという気持ちも起き、また、家から通学するのに近いというのも選んだ理由の一つです。

大学時代の思い出は沢山あります。1年生の時のリーグ戦で、優勝候補で全勝街道を驍進していた神奈川大学に延長戦で勝利できたことです。試合が接戦になると観客の反応がどんどん変わってくるのです。その試合には最後迄全部だささせていただきました。

私は性格が明るく協調的な方なので、チーム内では、副キャプテンとして



調整役に回り、時には苦労したこともありましたが。

日本伝統文化学科は、歴史が好きだったので選びましたが、授業は面白くて為になった科目もありました。学外研修で大相撲・歌舞伎・能・狂言など初物づくしで「間」のとり方ひとつにしてもとても勉強になりました。レポートを書くのは大変でしたが幅広い分野を見聞できたことは今の仕事に非常に役立っています。

Q. 今のお仕事に入られたきっかけ、現在のお仕事は

卒業後は数社声をかけていただいていたので、バスケの実業団を考えていたのですが、突然思わぬ仕事が入り込みました。監督の友人の映画製作者が映画のメイキングにでる黒人と白人のバスケットの選手を探しているというところで、監督は即座に私と他大学の選

手を推薦してくれました。気軽にパイオ感覚でお受けしたのですが、撮影中に製作スタッフや共演者と色々話している内に「芸能界にこない。」と誘われ面白そうだなあと感じ、居酒屋のバイトをしながら芸能事務所へ登録しました。最初の内はモデルの仕事がたまにあつた位で、居酒屋のご主人から社員になつたらと薦められる程でした。

そうした中、タモリさんの番組の素人出演コーナーに出していただき好評で数週間出演させていただいたことが自信になりました。一年後今の事務所REMIXに誘われて移籍し、十二年目の今、NHKTV「あさイチ」の毎週火曜日、フジTV「Live News it」の毎週金曜日に出演している他、舞台・映画・ドラマ・バラエティ・リポーターなど多方面のジャンルからお仕事をいただいています。

Q. 後輩へのひと言を

私もまだまだ勉強中ですが、皆さんの将来にはいろいろな可能性があると思います。それに挑戦できるか、視野を広げて可能性を見つける嗅覚を持ち、情報をキャッチするアンテナを張って欲しいと思います。また、勉強することや経験することが、将来の糧になることもあります。いろいろ経験し大いに学んで下さい。

進路

大学・短期大学の就職

就職活動における通年採用と大学教育での新しい流れ

大学・短期大学就職支援センター長
特任教授 猪又 優

採用形態の多様化

今年4月22日、経団連と大学側は採用のあり方や教育改革をめぐる産学協議会を開き、新卒一括採用に加えて「学生個人の意思に応じた複線的で多様な採用形態に秩序をもつて移行すべきだ」との認識で一致しました。

従来の新卒一括採用の仕組みと限界

高度成長以来、日本型経営の企業では、新卒を一括定期採用し、入社後に配属を決め、また定期的な異動により本人に合った職種を探すと共に、幅広い部署の経験から幹部として会社の担う人材となっていく形式となっていました。しかし、IT技術の発展とグローバル化により、経年で蓄積した経験だけでは新しい事業展開をカバーできず大きな問題となつていきます。

経団連と大学側が目指す採用・教育改革のポイント

このような状況下、前述の産学協

議会では、採用と教育改革に関し以下の六つのポイントを示しました。

①新卒一括採用に加えて能力重視の通年採用を拡大、②通年採用が増える職種はAIやデータ分析、マーケティングの人材を想定、③留学生も時期にとらわれずに就職しやすく、④卒業後に執行猶予期間を設けて採用時期を多様に、⑤実質三年間の大学教育では不十分なので卒業要件を厳格化、⑥すべての学生が最低限の数学や教養を習得。

大学としての対応

このような変化はここ数年で確実に起きると考えてよく、大学としても従来以上に学生一人ひとりのキャリア形成に深く関わる必要があると考えています。教育面では、学生の希望に合わせた専門的な知識の定着とそれを実際に使える実践力の養成であり、具体的には経済産業省が唱える「社会人基礎力」の獲得を目標にした課題解決型、双方向型の授業の拡充などが方法だと思っています。また「成徳」の精神を涵養する授業のより深い展開も必要だと思っています。学生支援の面では、キャリアコンサルティングの能力を持つ専門員を配置し、通年で学生のキャリア形成への相談に応じる体制作りが急務と考えています。

平成30年度卒業生の進路状況

大学・短期大学キャリア支援課

平成30年度大学・短期大学の卒業生は、難度が高いと言われる有名企業や大企業にも積極的にアプローチし、入社する学生が増えてきています。この傾向は現在就職活動をしている4年生にも見られるもので、数年前とは内定を獲得する企業先が変化してきていると感じます。

大学の主な就職先

学部	主な就職先（過去3年）
子ども学部	【教職・保育職】小学校、幼稚園、保育所、認定こども園、学童保育、児童館等 【金融】りそなグループ/朝日信用金庫 【アパレル(子ども服ほか)】ナルミヤ・インターナショナル/ユニテッドアローズ/F・O・インターナショナル/アダストリア 【卸小売】東京山勝/キタムラ/赤ちゃん本舗 【サービス】ベネッセコーポレーション/スタジアム/保険の窓口グループ/ニチイ学館/リクルートメディカルキャリア 【公務】朝霞市職員
経営学部	【製造】日本ロレアル/サマンサタバサジャパンリミテッド/レナウン/FDK/パル 【金融・保険】足立成和信用金庫/埼玉信用金庫/芝信用金庫/東京東信用金庫/飯田信用金庫 【不動産】住友不動産販売/京急不動産【運輸】ヤマト運輸/日本郵便 【卸小売】渡辺バイブ/メーカーズシャツ鎌倉/ミキハウス/日本調剤/ココロラボ ラーズジャパン/アダストリア/ローソンエンタテインメント/ザラ・ジャパン 【IT】トランスコスモス/ミロク情報サービス【サービス】スタジアム/IBJ
応用心理学部	【建設】東光電気工事/大竹建窓【製造】なとり/三栄管財/協同工芸社 【卸小売】オンワード樺山/赤ちゃん本舗/大創産業/カスミ/メガスポート/ワイズマート 【金融】水戸信用金庫/亀有信用金庫 【サービス】シティパークアンドサービス/ベストブライダル/日本教育クリエイト/セントラルスポーツ/スポーツクリエイト 【医療・福祉】サンリツ/タカサ/カスケード東京/AHCグループ/白報会グループ/有朋会/日本保育サービス 【公務】千葉県立高等学校教諭/千葉県職員/千葉県警/江戸川区役所/八千代消防本部
人文学部	【建設】ティーエスケ/大竹建窓【製造】新栄/アドバンテック 【卸小売】岡部バルブ工業/マルエツ/イトーヨーカ堂/千葉薬品/ITS/ヨドバシカメラ 【不動産】レオパレス21【IT】日本企画/ビジョン 【サービス】近畿日本ツーリスト/日本健康倶楽部/リラックス/ANAエアポートサービス/平山/リアホールディングス 【福祉】清和会【教育支援】市川日本語学校

学部ごとの進路状況

進路決定率（就職決定者+進学決定者+留学者・専門学校入学者/卒業生）

	大学全体	子ども	経営	応用心理	人文	短期大学
2018年度	89.3%	95.6%	90.7%	82.4%	80.9%	95.5%
2017年度	90.4%	93.7%	94.0%	87.4%	80.6%	96.8%

就職決定率（就職決定者/就職希望者）

	大学全体	子ども	経営	応用心理	人文	短期大学
2018年度	95.5%	98.5%	96.7%	89.9%	93.9%	100.0%
2017年度	97.7%	100.0%	97.9%	95.2%	95.8%	100.0%

高等学校の進学 東京成徳大学高等学校

平成 30 年度 主な合格実績

国公立大学（準大学含む）	42 名
東京 大阪 筑波 東京外国語 横浜国立 千葉 東京海洋 東京農工 埼玉 埼玉県立 首都大学東京 茨城 宇都宮 北見工業 岐阜 静岡 高崎経済 都留文科 新潟 新潟県立 山梨 山梨県立 防衛大学校 など	
難関私立大学	270 名
早稲田 慶應義塾 上智 東京理科 明治 青山学院 立教 法政 中央 など	
併設の大学・短大	19 名
東京成徳大学 東京成徳短期大学 〈高等部・中高一貫部・浪人を含む 延べ人数〉	

平成 30 年度の卒業生 547 名のうち、進学者は 467 名でした。その内訳は、大学 436 名、短大 9 名、専門学校 22 名です。進学率は約 85 % で、大学進学率は全体の約 80 % となり、昨年より若干上昇する結果となりました。浪人は 67 名で、例年並みでした。

〈大学入試全般〉

平成 31 年度の大学入試では、近年活発だった国公立大の学部の新設・再編の動きは落ち着いてきたものの、理工系の学部を中心とする学科再編の動きは活発でした。一方、私立大では、国公立大とは対照的に学部新設の動きは盛んで、国際系、医療系の新設が目立ちました。前年入試では国の定員超過抑制策の影響で合格者を絞り込み、難化した大学が相次いだことが

ら、今春はさらなる合格者の絞り込みを警戒して難関大学を敬遠する動きが目立ちました。

〈国公立大学について〉

今春のセンター試験では、「英語」「国語」といった主要科目で平均点が上昇しました。この影響で、5 教科 7 科目総合型の平均点は文系型・理系型ともに大きく上昇、現行課程になった 2015 年度以降最高点となりました。

本校ではセンター試験の点数が良かった生徒が多く、強気の出願が見られましたが、2 次試験対策も十分に良い結果を収めました。

東京大・大阪大・筑波大・東京外語大・横浜国大・千葉大など国公立大学に 42 名合格となりました。

〈私立大学について〉

今春入試は一般入試でのさらなる合格者の絞り込みを警戒して、受験生の安全志向が際立つ入試となりました。このため、本校では A O ・推薦入試を活用して早期に進学先を決めた生徒が例年以上に多かったと思います。

また、前年より正規合格者数を減らして、補欠合格からの「合格」や不合格を出してからの「合格（追加合格）」とする入学者数調整の動きがみられました。3 月下旬に、受験生に連絡が入るので困惑するケースもあります。特に、追加合格は不合格から合格になる制度なので、入学試験を受けた感触から予想する必要があ

るかもしれません。

厳しい状況でも、本校の生徒は受験件数を増やして合格の可能性を高める対策をとりました。早慶上理は 61 名、GMARCH は 209 名、文系難関（成蹊・成城・武蔵・明治学院・國學院・獨協）と理系難関（北里・芝浦工業・東邦・東京農業・東京都市・東京電機）合計は 141 名、日東駒専 162 名となりました。定員厳格化以降では、過去最高の合格者数となりました。

今後とも生徒の進路希望や学力などを総合的に考え、進路指導をしていく所存です。

東京成徳大学深谷高等学校

平成 30 年度の深谷校卒業生数 302 名の進路状況は、大学 176 名、短大 27 名、専門学校 75 名、就職 13 名、浪人 9 名、留学準備 2 名でした。短大への進学者数は昨年並みでしたが、卒業者数の増加に伴って大学、専門学校が増加となりました。

進学コースや進学選抜コースでは推薦入試や A O 入試を利用する生徒が多く、255 名中 137 名、約 54 % の生徒が指定校・公募推薦入試・A O 入試で大学へ進学しました。特に私大入試の難化に伴い A O 入試や指定校推薦を希望する生徒・保護者の増加が見られました。また、指定校推薦においては各大学とも想定していた受験者数を超える状況がでてきているので、高

等学校に示す推薦基準を見直す動きが今年もみられました。今後は推薦基準の高まりを意識しながら推薦入試に対する準備が必要と考えています。

一般入試受験を中心とする特進 S コース・中高一貫コースは、「入学定員管理の厳格化」の影響もあって全体的には厳しい結果になりましたが、東京理科大学などをはじめとした難関大学については昨年度以上の合格実績を出すことができました。

令和 2 年度は従来型入試の最終年度となり、併願校の増加を伴う厳しい入試と浪人を避けるために安全志向の出願の二極化が進むと思われる。本校では進学センターを中心とした放課後講習や夏期講習、スタディーサポートやスタディサプリなどの学習コンテンツを活用して確かな学力を身につけて希望進路を目指すように出願指導を行っていきます。

平成 30 年度 主な合格実績

国公立大学	5 名
埼玉 埼玉県立 高崎経済 群馬県立女子	
私立大学	246 名
東京理科 明治 青山学院 立教 法政 成蹊 國學院 獨協 芝浦工業 日本 東洋 駒澤 専修 大東文化 東海 亜細亜 国士館 など	
併設の大学・短大	各 2 名
東京成徳大学 東京成徳短期大学	

国際学部

学部長 芳賀 克彦

国際学部は本年4月1日に正式にスタートしました。これから、皆様からのご指導とご支援を頂きつつ、同学部の発展と教育・研究活動に精一杯努めて参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

本学部の目的は、「東京成徳ビジョン100」の主要な目標にも掲げられている我が国の内外で活躍できるグローバル人材の育成にあります。すなわち、日本国内では少子高齢化を背景として、人口減少、地方の過疎化、労働者不足が一層進行する一方、消費の低迷により国内需要が縮小すると見込まれており、今後、新興国市場をはじめとする海外市場から一層需要の取り込みを行うとともに、国内の地域経済や労働市場の国際化を通じて経済の活性化を図る必要があります。これらの課題の解決のために一翼を担うことができるグローバル人材の育成を目指しています。

本年4月に56名の新生（男性10名、女性46名）が入学致しました。本学部のカリキュラムの大きな特徴は、1年次後期から2年次前期までの約1年間に全員がアメリカ、あるいは、韓国へ海外留学することにある

ります。本年度の新生の留学先につきましては、各学生からの要望を踏まえ、アメリカへ22名、韓国へ34名の学生が派遣される予定になっています。そのため、1年次前期は9月から留学を開始するための重要な準備期間と位置付けており、英語あるいは韓国語の4技能（聞く、話す、読む、書く）の向上を目的とした語学関連科目、留学に必要な諸手続きや現地での長期滞在に必要な知識の習得を目的とした留学前ゼミナールなどを必修履修科目としています。

新生の学生たちは国際学部に入學した理由は様々ですが、現在では海外留学という共通の目的に向かってお互いに励まし合いながら学習に取り組んでいます。アメリカでは3都市の研修機関、韓国では2カ所の大学付属語学センターに分かれて学生が配属されますので、各グループ内での連帯感も生まれつつあります。

学生たちは留学から帰国後、2年次の後期から語学の上級科目や国際関係、国際協力、国際文化等の分野の専門科目を学び、幅広い教養を身に着けるとともに、就職準備の一環として高い語学力を証明するため資格試験にも取り組むこととなります。

人文学部

【日本伝統文化学科】

学部長・学科長 青柳 隆志

日本伝統文化学科は現在、2年生41名が東京キャンパス（十条）で、3年生18名と4年生26名が千葉キャンパス（八千代）で学んでいます。

本年度、小林朋恵先生、森下達先生のご退職に伴い、新たにお二人の先生をお迎えしました。高草真知子先生と小橋玲治先生です。高草先生は、国語教育が御専門で、教員免許取得のため、頼りになる先生のもと、学生たちは国語教員としての専門性を身につけようと努力しています。小橋先生は、比較文学、日本近代文学が御専門で、多様な趣向を有する日本伝統文化学科の卒業論文指導に、広い視野であたつてくださっています。フレッシュなお二人とともに、ますます教育の充実を図りたいと思います。

学科では、6月15日に2年生全員で、東京国立博物館等の見学実習を行いました（写真）。10月12日に3年生の佐原の大祭見学などがあります。4年生は卒業間近に、江戸川周辺の見学実習を予定しております。「文化を体験して学ぶ」ことが学科の特徴ですので、卒業まで充実した

研修を続けていきたいと思っています。

卒業論文の提出を控えて、4年生は各ゼミで指導を受けながら、研究に励んでいます。就職活動はますますピークですが、勉学を疎かにしてはならない、と学科では考えております。夏に向けて、自分の関心のあることの知見を深めてほしいと思っております。

資格取得は確実に指導してゆきたいと考えております。夏に向けて、教育実習・博物館学芸員実習・日本語教員実習が順次行われます。こうした体験が、直接の職業に結びつくこともあり、また社会人基礎力の向上にも大きく役立ちます。卒業生諸君の活躍がその証左です。



【国際言語文化学科】

学科の現状と国際交流の取り組み

学科長 周建中

国際言語文化学科は、2年生が東京キャンパス（十条）、3・4年生が千葉キャンパス（八千代）で、それぞれ学業や就活に励んでいます。

今年度の学生の留学は、前期に韓国へ交換留学3名、半期留学2名が現在留学中ですが、後期は交換6名、半期3名の派遣予定です。海外からは、韓国白石大学から2名の女子と台湾開南大学からの2名の男子、計4名の交換留学生在学中です。また、今年度も台湾開南大学への夏休み短期留学を派遣する予定です。

5月のお昼の時間帯に、新緑に包まれた東京キャンパス6号館1階グローバルラウンジにて、4名の留学生の歓迎会兼交流会を行いました。食事をとりながら歓談する形で始



交換留学生歓迎会

め、交換留学生の大学生活について、教員が事前に用意した質問用紙でインタビューしながら、質問、回答しました。皆さんは、共通的に日本の文化が好きであること、特にアニメや漫画、ドラマに関心が高く、また日本での生活が楽しいことに「安心」

さらに、本学の魅力として、「建物が綺麗」、「交通が便利」、「先生が優しい」と口を揃えて言いました。今後の進路としては、「日本で就職したい」、「日本語関連の仕事につきたい」とのことでした。歓迎交流会は始終笑い声で包まれました。

4月より同ラウンジにてベルリッツの講師による英会話レッスンを「English Lounge」が毎日開催されています。身近な話題から旅行、留学生活などテーマが豊富で、興味のある回に前日までに申し込めば参加可能という気軽さも魅力の一つです。

国際言語文化学科からも多くの学生が参加していますが、英語圏での留学を目指す学生だけでなく、中国・韓国語を主専攻にしている学生も実践的な英会話を学ぼうと積極的に取り組んでいます。参加学生からは、「先生が面白く、丁寧に教えてくれる」、「学生一人にかけてくれる時間が長く、細かなところをチェックしてもらえらる」と大好評です。

大学院

心理・教育相談センターのご紹介

心理・教育相談センター長 田村節子

本センターは、地域に開かれた相談機関であるとともに本学大学院心理学研究科に併設された教育施設でもあります。本学のみならず他大学の卒業生、社会人経験者も数多く院生として在籍しています。修士生は心理職として公的相談機関、スクールカウンセラー、および病院やクリニック等で活躍しています。

心理職として活躍するためには、知識だけではなく実践も重要となります。院生は修士課程1年で理論や技術を学び、2年では修士論文の研究や臨床実習を行います。国家資格の「公認心理師」や多くの院生が目指す「臨床心理士」は、臨床実習のためのカリキュラムが厳格に定められているため、本学では学外5分野（保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働）の実習と本センターでの実習を行っております。

本センターでは本大学院教員スーパーバイザーの指導のもと相談員である大学院生（修士2年生）が主に面接を担当します。ご相談内容によつては教員が担当する場合もあり、次のような様々なお悩みのご相

談をお受けしています。

- ・自分の性格に関する悩み
- ・家族（親子関係・夫婦関係）についての悩み
- ・仕事上の問題
- ・子どもの学習上の課題や進路についての悩み
- ・不登校や行きしぶり
- ・発達の遅れや障害に関する悩み（子どもから大人まで）
- ・おねしょの悩み相談など。

右記について、カウンセリング、家族療法、遊戯療法、催眠療法、自律訓練法、認知行動療法、心理検査などを行います。なお、秘密は堅く守られます。料金は左記のとおりです。

※（東京成徳学園の皆様は、学園特約の料金でご利用いただけます。）

皆様のご相談をお待ちしておりますと同時に、お知り合いにご紹介いただけますとありがたく存じます。

センターのご案内



- ・受付は東京成徳大学東京キャンパス（十条）5号館の1Fにあります。
- ・ご相談は1Fと2Fの面接室などでお受けします。

	初回面接 (1回目)	継続面接 (個人面接)	継続面接 (親子並行面接)
一般	3,000円	2,000円	3,000円
学園	1,500円	1,000円	1,000円

応用心理学部

【臨床心理学科】

「学外実習」がスタート

特任准教授 香取 早苗

今年度から4年生の学外実習がスタートしました。実習は、医療・教育・福祉の7施設で行われます。実習生は、将来、公認心理師を目指す学生で、初めての実習に緊張しながらも意欲的に臨んでいます。

学生たちは、5月7日にフリースクールの草分けである東京シュール理事長・奥地圭子先生から事前講義を受け、16日に『東京シュール葛飾中学校』で実習を行いました。卒業生4名から不登校の体験談を伺い、不登校支援の在り方を考えるよい機会となりました。

東京シュール葛飾中では環境にも工夫がされています。トイレもその一つです。トイレでいじめられ、トイレに対し嫌なイメージをもっている子どもが多いので、男子トイレも個室の数を多くし、安心して行けるようにしました。一人ひとりが大切にされていることが施設環境からも伝わってきます。学生からは「ありのままの自分を認めてくれる人や環境がとても大事」「フリースクールやこのような学校があるこ

とを多くの人に知らせる必要がある」などの感想が聞かれました。

5月22日は「東京都立中部総合精神保健福祉センター」で実習。こちらでは統合失調症やうつ病等、精神障害者の復職や復学など社会復帰に向けた様々な支援を行っています。実際にデイケアや作業療法、シヨーステイの施設を見学しました。「病院のデイケアと精神保健福祉センターでのデイケアとの違いは？」と学生も熱心に質問していました。



【福祉心理学科】
新年度が始まって

学科長 江間 由紀夫

福祉心理学科の新年度は、3年生と4年生のみで始まりました。新入生や2年生がいない学内は、少々寂しさも感じられますが、学生・教員一同協力して学生生活の充実を目指しています。

5月末には、4年生の卒論デザイン発表が行われました。今年度は、社会福祉士・精神保健福祉士のダブル合格を目指しながら卒業論文にも取り組む学生が例年より多く、積極的に学ぼうとする姿勢が見られています。

資格取得関連では、6月より社会福祉士を目指している3年生が実習に出ています。7月からは精神保健福祉士を目指す4年生の実習も始まります。保育士の試験や公務員試験に取り組む学生たちの真剣な取り組みも続いています。

学内では、サポートサークルや手話サークルに所属している学生たちが障害学生支援の中心的な役割を担っています。また地域社会においても医療機関のイベントへのボランティア参加や、福祉施設でのアルバイトなど学生たちの活躍の場が広がっています。

福祉関係の仕事に就いた卒業生も多く、時々大学に顔を出してくれて現場での活躍を話してくれます。

福祉の現場の厳しさを感じつつも仕事に価値を見出していく姿には、成長と逞しさを感じさせられます。

経済の発展に重点が置かれていた時代において、福祉心理学科の学生たちは、支援を必要としている人々に向かい合い、共に生活している社会を目指して学び、卒業後も様々な領域で活躍を続けています。本学の教育理念「共生とコミュニケーション」を学生たちが実践してくれていることは、教員としてとても嬉しいことです。

一方で社会はもつと福祉の現場で活躍する人たちのことを考えて欲しいと思います。少子高齢化が進んだ現代社会では、誰もがいざれ他者の助けを必要とする時を迎えます。支援の仕事をする人たちが誇りと自信を持って働ける社会でなければ、支援を受ける人の生活も豊かにはなりません。

福祉心理学科はあと2年で閉じられますが、そうした社会の実現に向けて、教員一同学生たちと共にこれからも学び続けたいと思います。

【健康・スポーツ心理学科】

移転に合わせてカリキュラム見直し

学科長 木幡日出男

健康・スポーツ心理学科は、来年4月の新入生（12期生）から東京キャンパスで学修します。2009年に1期生を千葉キャンパス（八千代）に迎え、以来11年間にわたり豊かな自然と充実したスポーツ施設を活用し学生の教育に尽力してきました。

来年の移転に伴いこれまでの学科の特長であった「心」と「体」を元気にする方法を心理学とスポーツから学び、「人々の笑顔をつくる人になる」ことに加え、教育課程をさらに都会型の環境に適応した授業科目を設定。特に、「身体的、精神的、そして社会的に健康で安心な状態」である「ウェルネス」を主眼に置き、人々の「ウェルネス」を支援できる人材を育成することを目的としました。同時に、ヘル

スケア関連企業、医療・福祉施設、フィットネス産業、健康フード・栄養産業などウェルネス産業分野で活躍できる人材の輩出を想定しています。現在、高齢化社会の抱える社会的ニーズにこたえられるように健康・福祉行政の担い手として、企画力や実行力に富んだ多業種にも共通するリーダーシップを発揮できる人材の育成をも視野に入

れています。

人材育成の基となるリーダーシップ養成のチャンスとして、少人数授業である2年「基礎ゼミ」においてその機会を提供しています。具体的には、「スポーツ大会」の企画・運営をゼミ毎に計画し、各ゼミ間で実施企画を投票選考します。決定された企画では、役割としてリーダー、チーム編成、ルールの説明、誘導、用具、タイムキーパー、審判、総合司会等を分担します。大会企画の選から漏れた他のゼミ学生も運営に協力します。今回の企画の二つとして「ドッジビー」（一般社団法人日本フライングディスク協会の独自公認種目を参照）が採用されました。試合形式や対戦組合わせも学生のみで決定。このような経験が将来の学生の可能性発揮の一助となることに期待すること大です。



スポーツ大会前のルール説明風景

子ども学部

子ども学とは（リレー掲載②）

造形の第一歩

准教授 直井崇

東京成徳大学子ども学部には、造形に関する様々な授業があります。その内の一つに基礎造形Ⅰがあります。

造形に対して、人それぞれ様々な思いがあるかと思いますが、誰もが最初から絵が思うように描けるわけではないと考えています。私自身のこととなりますが、高校時代、理系に進学しようか美術系に進学しようか考えていた時期があります。その頃、ある同級生と友人になりました。その友人は凄いと思わせる絵を描く人でした。負けず嫌いな私は、人知れず努力をしました。その過程があつたからこそ、美術系の進路を歩むこととなりました。

私自身、初めから思うように絵が描けたわけではありません。また前記の友人も、人知れず努力していたことを後に知りました。造形には様々な学びが必要となりますが、子ども学部の学生に、大事にしてほしいことの一つとして考えていることがあります。それが基礎造形Ⅰの

授業で最初に学生へ伝えている、「自分自身の作品に自信を持つこと」と「他者の作品を悪く言わない。良いところをみつけること」です。

造形には様々な学びが必要となりますが、能動的に取り組むための心構えとして、「自分自身の作品に自信をもつこと」を伝えています。前記実現のためには周囲からの協力も必要になります。それが学生に伝えているもう一つのことである、「他者の作品を悪く言わない。良いところをみつけること」です。相手のことを想つての助言などであれば良いのですが、他者の描いた作品をただ悪く言うだけの光景は見ていて悲しく、教育的にも望ましくないと考えています。私の授業を受けた学生からも、「自分の作品に自信を持つことと言われ、心が軽くなった」といったコメントをもらいます。これらのことから、「自分自身の作品に自信を持つこと」と「他者の作品を悪く言わない。良いところをみつけること」を、子ども学部における造形に関する学びの、最初の一歩として私は重視しており、日々の指導に取り組んでいます。

経営学部

チームビルディング研修

准教授 石川 雅俊

本年も昨年に引き続き、新入生に対しチームビルディング研修を行いました。健康・スポーツ心理学科の川北教授の指導のもと、アイスブレイクやライフキネティックを実施したという点は昨年と同様ですが、今年は、学生に「経営学」を学ぶ意義を理解させるために、①全員でモノポリーをしたり、②夢の島熱帯植物館へ社会科学見学に行きました。本年度このような研修内容を追加した理由は、①モノポリーは、楽しみながらお金の仕組みを学ぶという点で最適な教材であること、また、②研修先である夢の島（江東区）はゴミの埋



め立て地であり、区の清掃工場に隣接する熱帯植物館は、まさにそのゴミを燃やす際に発生した熱を利用して植物を育てている施設ですが、そのような一連の仕組みは非常に効率的なもので「経営学」を学ぶ上で有意義であると思われることからです。

チームビルディング研修は、新入生に対し、ともに大学で「経営学」を学び、卒業という「共通のゴール」を目指す仲間を見つけてもらうことを目的として実施しているものです。

我々教員は、どのような研修内容にすればその目的が達成できるかを思案するのですが、実は、目的の達成に最も寄与しているのは、内容それ自体よりも、みんなで同じ場所に「宿泊」したことにあるように思われます。本当の意味で仲間を知るには、一晩中語り明かすことが一番なのではないでしょうか。

本研修が、新入生の皆さんにとってよい思い出になってくれたことを期待しています。

短期大学

令和元年度スポーツ大会開催

幼児教育科 准教授 池田 三鈴

5月18日（土）、涼やかなスポーツ日和に恵まれ、東京キャンパス体育館で幼児教育科の「令和元年度スポーツ大会」が開催されました。

スポーツ大会は、桐友会役員が運営の指揮をとり、1年生と2年生のほぼ全員が参加する大型の体育行事となっています。

今年の競技種目は「台風の目」「ドッジボール」。学年を超え、同じクラスカラーの上級生と下級生がお互いを応援し合いながら、一体となって身体と身体をぶつけ合って楽しむ、素晴らしい時間でした。

運営の指揮に携わった桐友会の学



生達も大変な中で得られた充実感をひしひしと感じていました。最後に参加学生たちが桐友会を労う瞬間があり、とても微笑ましいものでした。幼児教育科では、これから本格的に始まる実習や就職活動においても、縦のつながりを大切に育み、豊かな人間関係の礎を築いていってくださることを心から願っています。

中高一貫部

進路指導週間の実施

年2回の生徒と学級担任による面談週間と併行して、進路指導週間を始めて3年目になりました。様々な体験イベントを通じて、主体的に取り組み生徒個々のポートフォリオを充実させていけるよう指導を進めています。これまで、次の9つの企画を作り、多くの卒業生にも参加してもらいました。中高6年間で色々悩み、それを乗り越え、今、輝いている（輝きつつある）先輩たちとの交流は、きつと貴重な体験となったはずです。

企画① 個別相談・探求活動

実習生や卒業生による個別相談やインターネットによる探究活動

企画② 理科プロジェクト

大学講師を招いての理科実験や最先端の研究紹介

企画③ 国際交流

留学アドバイザーを招いての短期・長期留学と海外進学説明会

企画④ アカデミック体験授業

大学や業界の専門家を招いての講義や学力向上のアドバイス

企画⑤ 進学説明会

大学や予備校の担当者を招いての大学紹介や入試動向の説明会

企画⑥ 学生交流会

臨床心理を学ぶ院生、教育サークルの学生との交流や卒業生を交えての入試報告

企画⑦ キャリア・インタビュー

社会で活躍する人や卒業生の話を聴いて、将来の進路を考えよう

企画⑧ Arts 体験授業

音楽・美術・スポーツ等を通じて心も身体もリフレッシュ

企画⑨ 外部ガイダンス

キャンパス見学、外部進学ガイダンスや業者主催の体験授業を校内で実施

今年度は、更にターゲットを絞り、生徒のニーズに合ったものを紹介しました。このイベントから、夏休みの生徒個々の進路探究につなげていってもらいたいです。

今年度の主な実施テーマ

（5・6年希望者対象）

- ・ 志望理由書の書き方
- ・ 公募制とAO対策
- ・ 海外大学進学ガイダンス
- ・ 卒業生訪問

（4年全員対象）

- ・ 新入試対応と学力リサーチ・模試の活用

（3年全員対象）

- ・ 新入試対応と学力推移・総合学習調査の活用

高等部

自然科学部が審査員特別賞を受賞

日鉄エンジニアリング株式会社と株式会社リバネスが開催した「情熱・先端Mission-E」に参加し、2030年冬季五輪競技場の設計を想定した競技場の設計や実際の大きさの1/100程度の構造模型の制作を行いました。積雪などを想定した耐荷重試験の他、競技場の利用後活用や環境配慮についてのアイデアなどについて、調べたり意見を出し合ったりし、何度も試行錯誤しました。

答えのない課題に挑戦するという、通常の学校生活では味わえない経験を通して、クリティカルシンキングやディスカッション、プレゼンテーションといった現代社会に必要な能力が養われたと思います。開発途中には、実際現場で指揮をとっているエンジニアの方々が学校を訪問し、実際の模型を見ながらアドバイスや生徒との議論をして頂くなど、「本物」に触れる機会が多くありました。今学習している内容や学校生活が、実社会でどう活かされるのか、必要とされている視点はどのようなものか、各自が考える良いプロジェクトとなつたように思いました。

生徒は、「予想と違う点を実験で修正し、成功に繋がるのではないかと考えた。」「チームワークや計画を重視し、作業工程の把握を欠かさないことの大切さを実感した。」「思考・挑戦・失敗のサイクルを繰り返すことで成功に繋がることを実感した。」「と、実際にプロジェクトに参加することで、再認識したり新たに考えたりと、良い経験になったようです。

東京スカイツリーなど身近な構造物を建設した企業の方と本気で議論でき、チームで一つの構造物を制作する過程は、高校生では味わえない体験です。さらに、東京工業大学教授から審査員特別賞を頂くこともできました。大人からは出せないユニークなアイデアが評価され、参加生徒たちは、型に捉われない大切さを感じ、自分たちの取り組みに対する自信を持つことができたと思います。



製作した構造模型の前で 江幡先生と部員のみなさん

深谷高等学校

弓道部が関東大会及びインターハイ出場

弓道部顧問 中里 勝利

私たち弓道部は「インターハイ出場」を目標に掲げ、日々の練習に励んできました。8年前からは全国私学弓道大会に参加し、技術面だけでなく精神面の強化も図ってきています。その成果が、今年度実を結んだと思います。

4月の関東大会県予選では4位に入り、創部以来初となる関東大会出場を果たしました。茨城県で行われた関東大会では、予選を突破し、決勝トーナメントに進出しました。決勝トーナメントでは、2回戦で優勝した足利大学附属高校に負けてしまいました。ベスト8に入りました。この大会で選手たちは大きく成長し、その経験がインターハイ県予選に生かされたと思います。

6月に行われたインターハイ県予選では、1・2次予選を順調に通過し、3次予選に進みました。しかし、ここからは苦戦の連続でした。競射の末何とか3次予選を通過し、上位4校によるリーグ戦に臨みました。1戦目は大宮東高校に負け、2戦目



関東大会決勝トーナメント2回戦の様子

は深谷第一高校に勝ち、3戦目は坂戸西高校に勝ち、通算2勝1敗となりました。選手たちは1戦目の負けでよい意味で開き直ったのか、2・3戦目ではインターハイ出場経験のある2校に対し、自分たちの持てる力を十二分に発揮してくれました。優勝決定の順位競射でも、1度は負けた大宮東高校に臆することなく戦い、見事インターハイ出場を決めました。優勝が決まった瞬間は実感が湧かなかった選手たちも、控室で喜びを爆発させました。

8月7日から宮崎県都市で行われるインターハイでは、選手たち

は埼玉県代表として力を遺憾なく発揮し、活躍してくれると信じています。応援のほどよろしく願います。

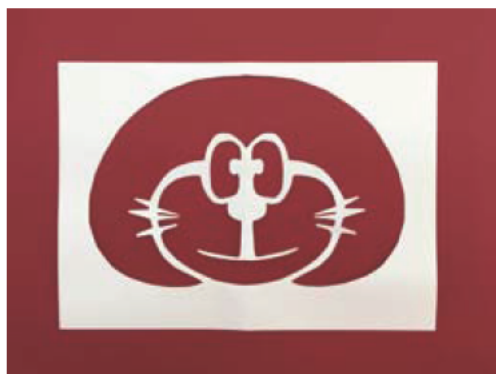
深谷中学高校一貫コース

芸術鑑賞会について

深谷中学校全学年と中高一貫コースの高校1年生は、芸術性の高い作品を鑑賞することによって、心の豊かさを育み、学校生活の充実を図ることを目的に、毎年芸術鑑賞会を実施しています。グローバル人材の育成（グローバル人材の資質の育成）というと、どうしても外国の文化に目を向けがちになりますが、自国の文化をしつかりと理解しておくことも大切であると考えます。そこで、四年間をとおして、歌舞伎、文楽、能・狂言、落語を体験することとしています。

今年度は、6月15日（土）、国立演芸場において、落語を鑑賞しました。当日は、落語の他、コントや紙切りも鑑賞し、心豊かな時間を過ごしました。生徒は、「落語は年配の方というイメージだったけれど、三時間とても楽しめました。今度は、家族でも行きたいと思いました。客

席のリクエストに、難なく対応する紙切りの技に感動しました。」と感想を述べてくれました。



紙切り師が生徒のリクエストに応じて作ってくださった作品

幼稚園

春の園外活動
年中・年長組春の遠足

5月15日(水)、年中組・年長組は、観光バスと園バスに乗って新宿御苑へ遠足に行きました。前日は雨模様で、子ども達は沢山のてくてくて坊主をつくり晴れることをお願いしました。当日は、さわやかに晴れて遠足日和となり、前日の雨で木々の青葉も一段と綺麗に見えました。

子ども達は、青空の下で元気に広い芝生の中を走りまわって遊んでいました。そしてお弁当の時間です。年長のお兄さん・お姉さんと一緒に年中組もシートを敷いて、「外で食べるお弁当は美味しいね。」と笑顔一杯の子ども達でした。

お弁当を食べた後は、新しく出来た大温室を散策しました。熱帯育ちの大きな木や、めずらしい花と青いバナナの房に大興奮です。滝が流れている様子を見ながら歓声をあげていました。初夏の自然をたくさん体験した貴重な一日となりました。

年少組春の親子遠足

年少組は、5月30日(木)に葛西臨海水族館へ親子で遠足に行きました。当日は爽やかな五月晴れに恵まれました。行きの観光バスの中で、

みんなで楽しく歌を歌い、先生からさかなクイズを聞いて、館内を見学して答えを見つけ、帰りのバスの中で答え合わせをする事にしました。

水族館では、大きな魚やペンギンがみんなを向かえてくれました。子ども達は、初めて見るものばかりのようで、大はしゃぎでお母さん方の手を引っぱって、各フロアーを見学して回りました。ガラスドームのある3階では、噴水池や青い海なども見えて大喜びでした。そしてもう一つのお楽しみのお弁当も、海風を感じながら、デッキやテラスでおいしくいただきました。今日一日で、大きな魚はゆつくりと、小さな魚は素早く泳ぐ姿を見て自然の生きかたを体感したようです。また、最後にクイズの答え合わせをして、魚のことをたくさん知る事が出来ました。



学園後援会

令和元年度総会開催

6月15日、令和元年度学園後援会総会が中高一貫部校舎において開催されました。

総会に先立ち本年5月に永眠された佐々木前会長のご冥福を祈って全員で黙祷を捧げました。

藪崎会長の挨拶の後、木内理事長が「学部を十条台に集結したことにより志願者も大幅に増加した。3年後には全学科を十条台に移す予定。」と説明され、東京校や深谷校のトピックス等も紹介されました。総会は、藪崎会長が議長を務められ、6件の議案について担当役員が



説明・報告、審議の結果、満場一致で可決されました。

続いて健康・スポーツ心理学科長木幡日出男教授が「しなやかに生きるために」というテーマで講演。先ずお隣の方と3回ジャンケンをして勝負してください」と会場を和ませ、スポーツメンタルトレーニングの観点から短所よりも長所に焦点を当てるポジティブシンキングを紹介されました。ワークシートに自分の短所を長所の言葉に置き換えて書き、自分を「客観視」する視点を持つ。ポジティブ思考に変えるストレスを操作できるので、ご自分の時間を「しなやかに過ごせる」と締め括られました。昼食の後は各人が近況を語られ楽しいひと時を過ごし散会となりました。





深谷高等学校弓道部が埼玉県予選で優勝し、全国総体初出場の快挙

東京成徳大学

男子バスケットボール部
千葉県春季選手権大会…………… 準優勝

東京成徳大学高等学校

女子バスケットボール部
関東高等学校女子バスケットボール選手権大会…………… 第3位
東京都高等学校総合体育大会…………… 第1位（全国総体出場）
ラクロス部
関東女子中高生ラクロスリーグ戦…………… 第3位
水泳部
東京都高等学校選手権水泳競技大会…………… 男子 50m 自由形第2位・100m 自由形第3位
女子 100m 自由形第8位・200m 自由形第5位
女子 400 メドレーリレー第8位
女子 400 リレー第8位
（上記全種目関東大会出場）

東京成徳大学深谷高等学校

弓道部
関東高等学校弓道大会埼玉県予選…………… 女子団体第4位（関東大会出場）
女子個人第2位
関東高等学校弓道大会…………… 女子団体ベスト8
全国高等学校総合体育大会弓道競技埼玉県予選…………… 女子団体優勝（全国総体出場）
全国高校選抜遠の弓道大会埼玉県予選…………… 女子団体優勝（全国大会出場）
男子団体第5位
パワーリフティング部
全日本高等学校パワーリフティング選手権大会埼玉県予選…………… 女子 47kg 級 優勝（全国大会出場）
男子 59kg 級 第6位（全国大会出場）
男子団体戦 第5位

東京成徳大学中学校

女子バスケットボール部
東京都中学校バスケットボール新人大会…………… 女子第3位
東京都中学校バスケットボール春季大会…………… 女子第3位

東京成徳大学・東京成徳短期大学

OPEN CAMPUS 2019

予約不要

詳細はホームページをご覧ください。

7/21 日 8/4 日 8/31 土 11/17 日

推薦入試対策講座 要予約
9/14 土

桐友祭
10/19 土 20 日
学園祭で学部・学科紹介(ビデオ)を公開予定。

東京
キャンパス
[十条]

東京成徳大学…………… 国際学部/国際学科 応用心理学部/臨床心理学科、健康・スポーツ心理学科
子ども学部/子ども学科 経営学部/経営学科
東京成徳短期大学… 幼児教育科

2020年4月入学生から健康・スポーツ心理学科は東京キャンパス(十条)でスタート!

学校法人 東京成徳学園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp	
東京成徳大学大学院	http://www.tsu.ac.jp/gra	電話 03-5948-5161
心理・教育相談センター	http://www.tsu.ac.jp/center/tabid/210/Default.aspx	電話 03-5948-5162
東京成徳大学	http://www.tsu.ac.jp	
東京キャンパス (十条)		電話 03-3908-4530
千葉キャンパス (八千代)		電話 047-488-7111
東京成徳短期大学	http://www.tsu.ac.jp	電話 03-3908-4530
東京成徳大学中学校・高等学校		
中高一貫部	http://www.tokyoseitoku.jp/js	電話 03-3911-2786
高等部	http://www.tokyoseitoku.jp/hs	電話 03-3911-5196
東京成徳大学深谷中学・高等学校		
中学校	http://www.tsfj.jp	電話 048-573-1784
高等学校	http://www.tsfh.jp	電話 048-571-1303
東京成徳短期大学附属幼稚園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind	電話 03-3911-6337
東京成徳スイミングスクール		電話 03-3914-2383